

あわよくば

# 2 MARK 勝負

## 一般戦でSGを演出する

当欄は社説なので、基本的には何かを訴えかけたり、時には苦言を呈することが多い。しかし今回は思い切り褒めたいと思う。それが今回ダービーを開催した戸田の映像について。

10月にリニューアルされた同場の映像には、「これだよ！これがいいんだよ!!」が満載。発売締切前後から見どころを追ってみよう。

発売締切1分前になると、オッズから映像が切り替わり、選手が待機室から出てくるところが映し出される。6人が並んで正面(カメラ)に向かって敬礼すると、本番ピットへ歩き出し、ボートに乗り込む。さらに発走信号の横辺りにカメラがあり、ピットアウトまでの様子も至近距離で見ることができるのだ。

初めてこの映像を見た時には、あらかじめ撮影されたものかと思ったが、すぐにリアルタイムであることが判明。よく見ると、レース前のルーティンや挙動は千差万別で、塩をまく選手もいれば、踊るように跳ねる選手、乗艇前に体を伸ばす選手など、その違いを観察するだけでも面白いし、興味深い。

レース前のピットに向かう様子が見られるのは、JLCのカメラが入ったSGの優勝戦前などに限られていた。それが戸田ではSGだろうが、一般戦だろうが、全てのレースで見ること

ができる。しかもリモートカメラなので、選手は映されている意識がなく、動きそのものが自然体であることが多い。

レース中も進化している。待機行動時、大時計の下にスタートまでの秒数がデジタルで表示される。これは平和島が先駆けだが、初心者にもわかりやすい。それにレース中は基本的に広い画角で見せようとしている点も好感が持てる。レースを見ている人のほとんどが舟券を買っている。そのため、レースの迫力やかっこよさより、今どうなっているかということの方がはるかに大事だということがよくわかつている見せ方だ。

そこでこの映像づくりに携わった戸田ボートレース企業団の内田さんと大井川さんに話を聞いた。「構想は2年、テーマは『一般戦でSGを演出する』です。特にレース前の選手の動きを追う部分はこだわって、カメラの配置も試行錯誤しました。今はほかにはないことですけど、うちの映像にヒントを得て、真似する場がどんどん出てきてほしいと思います」。

映像が新しくなると、正直「これじゃないんだよ」ということが多いが、今回の戸田は「これでいいんだよ」のさらに上をいく、「これがいいんだよ」だった。

(ウエスギ)